



お か さくらの丘 だより

岸和田市立光明小学校 校長 笠川智香

No. 4
R 6. 6. 28
校長室より

先週末、近畿地方が梅雨入りしたとの発表があり、これから傘の出番も多くなりそうです。また、しばしばやってくる大雨等に、災害による被害を少しでも小さくできるよう事前の準備をしたいものです。稼業中に警報等が発令された場合のご家庭との連携は欠かせません。先月締め切りの調査用紙のご提出ありがとうございました。有事の時には調査用紙記載内容に従い対応していきますので、どうぞよろしくお願いします。また、通学路で危険箇所がある場合、情報をいただければ幸いです。

今週から学校水泳が始まりました。少ない学習機会ではありますが、まずは、水の環境になれること、全身が水につかった時の感覚、陸上と違った感覚を学びます。暑さに負けないように、体育の授業で体力をつけて心と体を鍛えています。体調が悪い時には、無理をしないようにしましょう。睡眠、休養、栄養ある食事、規則正しい生活を心がけていただきますよう、保護者の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



宝箱 きらり

光明フェスティバル 大成功！！

お礼文を掲載しています

6月14日(金)に光明フェスティバルを行いました。4年生以上の各学級が、事前に計画し着々と準備をしていました。当日の朝から、お客さんで見て回る幼稚園児さんや3年生以下の学年の皆さんは、もう待ちきれないわくわく感でいっぱいでした。見て回るのに園児さんの手を引いて班の人と協力しながら回っている姿は素晴らしかったです。

感動したのは、どの学級の出し物も皆で協力しながらの役割体制があったことです。その中でも、やはり最上級生の6年生の劇はすばらしかったです。残念ながらお休みした人のピンチヒッターで急遽、役に入った人もいました。突然の変更にも臨機応変に活躍する皆さんの姿に本当に感心しました。そして、楽しむ力もついてきました。この力はとても大切です。不足を口にすればきりがありませんし、周りで聞いている人たちも楽しくありません。しかし、そういった場面がほとんどありませんでした。素晴らしかったです。良かった点やこうしたほうがよかったという反省点をしっかり出し合うこと、そして話し合った結果を次年度につないでいきたいと思います。





◎自動車文庫・・・なかよし号 大盛況

◎給食試食会・・・6/13(木)



◎エピペン講習・熱中症研修

不審者対応の避難訓練・・・5/28(火)

不審者の学校侵入は全国的に散見されます。第1回目の避難訓練を全児童の皆さんで行いました。担任の先生の指示に従い本番さながら良く取り組みました。ただ、数名が、残念な態度が見られたようで、警察の方からも注意を受けました。教室は鍵をして電気を消す、カーテンをする。警察や救急車が到着するまでの約10分は、自分の命と周りの人の命を守る行動がとて大切になります。先生の指示を聞くこと、真剣に取り組む、このことを守りましょう。

夏休みまであと14日、友達や学年を超えて、さらに仲を深めていってほしいと思います。

エピペンを打つ練習



さすまたの訓練

光明フェスティバルの時にご来校いただいた方から、うれしいお礼文を紹介します。

『光明フェスティバルを参観させていただいて ～お礼～

校舎に一步踏み入れるなり、学校全体がいつもと違う空気に包まれているのを感じました。

廊下や階段で擦れ違うたくさんの児童は、みんな生き生きとした表情で、次の目的地に向かって歩みをとめません。

光明フェスティバル初参加の私は、どこに行けばいいのやら、うろうろ。しかし、そんな心配も束の間。各教室からは元気な呼び込みの声、廊下からは、校舎をねり歩きながら上演時間を宣伝する声が聞こえてきました。そんな声に誘われて、各教室を参観させていただきました。

どのクラスも素晴らしい出し物で、光明の子どもたちのパワーを感じました。

一番驚いたのは、このフェスティバルを自分たちで運営していたことです。

(先生方は、舞台裏でそっと見守っておられたり、お客さんとして他の教室におられたり。)

これまでの入念な準備があったからこそ、今日の素晴らしい本番があったのだと思います。

みんなで一つのものを作り上げる過程では、もしかすると意見のぶつかり合いや小さなト

ラブルもあったかもしれません。しかし、同じ目標に向かって意見を擦り合わせたり、折り合いをつけたりする力こそが、大人になったときに求められる大切な力です。

「光明フェスティバル」を通して、少し成長した自分に出会えたのではないのでしょうか。

思いきりやりきった達成感、仲間の活躍をみて“来年は自分も”と誓った心、仲間と深めた

絆、そのどれもが、明日の自分をつくるエネルギーになると信じています。

感動をありがとうございました。この素晴らしい伝統が継承されることを願っております。』

